

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子
 ○自ら問題を見つけ、進んで解決しようとする子を育てます(知)
 ○自分も友達も大好きな、やさしい心をもつ子を育てます(徳)
 ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます(体)
 ○大門のまちを愛し、学校やまちのために協力して働く子を育てます(公)
 ○多様性を尊重し、持続可能な社会の実現に向けて行動する子を育てます(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分自身を高めていく力

具体化した資質・能力

折り合う力 主体的な学び
多様性を尊重しようとする態度

中期取組目標

○子どもが生き生きと豊かに学ぶ、笑顔あふれる学校を創ります。
 ・「楽しい」「分かる」「できた」を大切にする授業づくりを進め、子どもが学び合いながら自らの学力を向上させていくようにします。
 ・一人ひとりが自己有用感を持ち、多様性を認め合いながら、楽しく学校生活が送れるようにします。
 ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成や仲間づくりを進めます。
 ・家庭・地域とのつながりを通して、持続可能な社会を築く一員としての視点(SDGs)に目を向けられるようにします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①人とかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える児童の育成を目指し、話し合い活動を大切に授業づくりを推進する。②3年生算数少人数、4、5、6学年の一部教科担任制や専科担任によって指導・評価につながる児童の多面的な見取りを行う。③学習習慣を身に付け、自らの学びを調整する自主学習を進める。
担当	研究推進部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 2～4年生は横浜市平均を上回っているが、5・6年生は平均を下回る学力である。また、生活意識・学習意識は4年生までは高い傾向にあるが、高学年は低めの傾向である。
 (2)学年ごとの学力層の分布
 低学年と高学年の学力層の分布には違いが見られ、特に国語科において顕著な結果が表れた。2、3、4年生は学力A層が多く、5、6年生で学力D層が多い。それぞれに適した指導形態や授業づくりが求められる。高学年で行われる一部教科担任制や、算数少人数指導が有効なものとなり、それぞれの学力層の児童の力を伸ばすことができるようにしたい。
 (3)経年変化の状況と学力向上に関わるこれまでの学校の取組状況
 令和4年度は、令和3年度と比べて学習・生活意識はやや上昇傾向にあると言える。ICTを活用した学習の導入と同時にコロナ禍での生活に慣れできたことが要因なのではないかと考えられる。
 学力と生活・学習意識が共に低い学年や、生活学習意識の高さが学力に結びついていない学年もある。学力向上のアプローチの手段は、要因を探りそれぞれの学年に適したものにしていかなければならないと考える。



今年度の目標

人とかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える子の育成
～話し合い活動を通して、たがいを認め合える学級集団づくり～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・児童に必要な資質・能力として「課題を発見する力」「発信する力」「受け止める力」「折り合う力」を取り上げ、これらの資質・能力の育成のために、話し合い活動を通して、主体的に学ぶ子どもの姿をめざしていく。
 ・授業研究会や指導案検討、実践提案を通して、効果的な話し合い活動を取り入れた授業づくりを研究していく。
 ・「話し合い」は全ての学習の基盤として育まれる資質・能力であるため、教科の枠は設けず、様々な教科、場面において研究を進めていく。
 ・理論研究会を通して、話し合い活動について講師の話を聞く。
 ・授業研究会や実践提案を通して、各学年や低・中・高学年ブロックで目指す姿を具体的にすることで、日々の授業にいかしていく。
 ・3、4年生は算数少人数、4、5、6年生は社会、理科、図工を教科担任制にし、音楽と家庭科を専科担任にすることで、学年として児童を多面的に見ていく。
 ・家庭学習として大門スタディを取り入れることで、児童の自主的な学びをうながしていく。

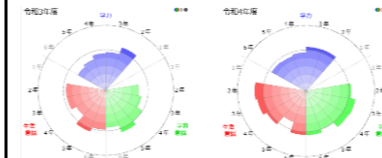
下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①児童の実態、行事や各教科等との関連を大切に道徳科の授業改善を進める。②人権・福祉教育、運動会等の行事、ペア学年活動、普段の学習を通して、他者の思いを想像する力の育成と自己有用感を高める。③人権研修や人権部からの発信を通して、職員の人権意識を高め、UD化の定着を図る。
担当	人権福祉交流部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
 令和4年度 全児童生活意識 自己意識
 令和3年度と令和4年度を比較すると、今年度の6年生の結果が横浜市の平均より低い。
 他の学年は令和3年度より令和4年度には向上傾向にある。



項目別に見ていくと、6年生は、自己肯定感が低い傾向にある。今年度、1年生とのハッピーサポートや最高学年としてさまざまな経験を積むことで、自己有用感・自尊感情の育成を図っていく。

(2)これまでの学校の取組状況
 ・人権学習や福祉交流などの人権・福祉教育、運動会、大門フェスティバル等の行事や日常の学習を通して、多様性を認め、他者の思いを想像する力の育成を図る。
 ・運動会、大門フェスティバルなどの行事や日常の学習を意図的に計画し、友達とともに一生懸命取り組み、自分たちでできた経験をしたり、思い通りに行かなくてもやり遂げようとする機会を多くもつことで、自尊感情・自己有用感の育成を図る。
 ・学校のUD化の推進する。
 ・職員の人権研修を行う。

今年度の目標

「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校をめざして
～自尊感情を育て、自分も他の人も大切にする児童の育成～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・年間指導計画に沿った、全学級の道徳授業公開を年一回以上実施する。
 ・学年ごとに道徳の教材研究、教材の取り扱い方を工夫した授業力向上を図る。
 ・年間活動計画を活用した他教科等の関連を大切に道徳科の指導をする。
 ・外部講師による教職員UD研修を行う。
 ・児童が安心・安全に過ごすことができるようにUD化を図る。
 ・運動会、ペア学年、縦割り活動による他者理解を図る。
 ・YP結果を受けて職員による考察をお子に、学級指導に生かす。
 ・人権・福祉掲示板の充実を図る。

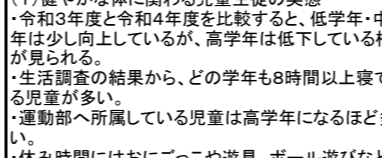
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①児童委員会の取組を進め、休み時間の活動を充実させ、体力の向上を図る。②スポーツクラブNASとの連携を行い、水泳学習の充実を図る。③元気がかびか週間の取組を工夫し、家庭との連携を深め、児童により良い生活習慣を身に付けさせる。④栄養教諭、養護教諭と連携した健康・保健授業の拡充を行う。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 ・令和3年度と令和4年度を比較すると、低学年・中学年は少し向上しているが、高学年は低下している様子が見られる。
 ・生活調査の結果から、どの学年も8時間以上寝ている児童が多い。
 ・運動部へ所属している児童は高学年になるほど多い。
 ・休み時間にはおにごっこや遊具、ボール遊びなどで外遊びを意図的に行う児童が多い。体育委員が遊具や鉄棒などの動きを紹介したことで運動の機会や意欲の向上につながった。
 ・低学年はテレビの視聴時間やゲームの利用時間は横浜市の平均より下回るが、高学年になるほど、平均より長くなっている。



(2)これまでの学校の取組状況
 ・「元気がかびか週間」を活用し、生活習慣を意図的に改善できるよう、家庭との連携を図っている。
 ・体育委員が遊具や鉄棒、なわとびなどの色々な動きを紹介し、運動意欲の向上につなげている。
 ・スポーツクラブNAS瀬谷施設を利用した水泳学習に取り組んでいる。

今年度の目標

健康な心身をつくるために自分自身の生活習慣を振り返り、実践できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・「元気がかびか週間」での家庭・保護者との協力を行う。
 ・体育委員会を中心とした、休み時間を使った運動遊びの紹介を行う。
 ・スポーツクラブNAS瀬谷施設を利用した水泳学習を行い、運動への興味を高める。
 ・各運動領域において、運動の特性を十分楽しみ、「自分自身を高めていく力」を身に付けられるように、段階的に学習をしたり、課題発見や課題解決ができるようにする。そのために、教員間での情報交換、研修等を行う。
 ・保健領域では、養護教諭、学校栄養教諭との連携、また道徳、特別活動、行事などの活動とも関連させて、運動や食事、睡眠などの生活週点を整える学習をする。

下半期